

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第 7 回高松市創造都市推進懇談会（U 4 0 / 第 5 期）
開催日時	令和 4 年 3 月 1 4 日(月) 1 8 時 3 0 分～2 0 時 3 5 分
開催場所	W e b 会議（高松市防災合同庁舎 5 0 1 会議室）
議 題	「U 4 0 世代へのアンケートの作成」
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	中村かおり委員、穴吹委員、大石委員、三木委員、棟近委員、若林委員、中村香菜子委員、西森委員、林委員、松井委員、湯川委員
市職員 U 4 0	佐々木、上原、四宮、齊藤、三好、平岡、香西、藪下
事 務 局	長井局長、三浦係長
傍 聴 者	なし（定員：5 人）
担当課及び 連絡先	産業振興課 創造産業係 8 3 9 - 2 4 1 1

審議経過及び審議結果

1 開会

（事務局から開会挨拶）

【会長】

オンラインで開催したかったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、今回も W e b 会議での開催とした。今回は、アンケートの設問を事前に考えていただいているので、その内容をブラッシュアップしていきたい。

会議を始める前に、まず、アンケートの目的を説明したい。アンケートの目的は、U 4 0 世代の代表である我々が、現代社会におけるマイノリティである U 4 0 世代の声を、市政に届けるということである。U 4 0 委員の各々の課題感から、今後、高松市に期待したい展開までを思い描き、アンケートの結果がその裏付けになるようにしたいと思っている。

このアンケートをひと言で表すと、「若者からの高松市への通信簿」である。通信簿のように、1 から 1 0 までの点数で評価をするようにしたい。アンケートの対象は、高松市内で働いていたり、学校に通っていたりする、1 0 歳から 3 9 歳までの方としたいと思っている。

審議経過及び審議結果

そして、それらの方々にU40委員が考えた全ての設問に答えてもらうことで、その課題感に共感してもらい、さらに、自由回答の設問も設けることで、U40世代の高松市の課題感に関する声を拾えていければと思っている。

つまり、高松市の行政にこういう風に動いて欲しいといったような、U40世代から高松市へのメッセージとして、アンケート結果がまちづくりに役立つようにしたい。

今回の会議では、事前課題として、アンケートの設問を作成してもらっているので、以上の内容を踏まえ、会議をすすめたい。

【副会長】

会長の繰り返しになるが、U40世代の声をしっかりと聞けるアンケートにしたい。U40世代に特化したアンケートによって、若者から高松市は、今、どういう風に見えるのかが分かるようになるのではないかと。若者が高松市を採点するようなイメージである。採点に当たっては、アンケートの問いが重要となるため、今回、全体で目的を共有し、事前課題をブラッシュアップしながら、問いを作成していきたい。

【会長】

期待感を持って、アンケートの作成に取り組みたい。アンケートのイメージを具体化する体験談があるので聞いてほしい。

【委員】

例えば、私は、小学校の頃に放送委員をやっていたことがあり、給食の時間に音楽を流すためのスピーカーの調子が悪かったので、担当の先生にスピーカーの買い替えを打診したことがあった。先生からは、自分だけの意見ではなく、他の大勢の生徒の意見も同じであれば、買い替えることはできるかも知れないと教えてくれた。そのため、アンケートを取ることにしたが、単にスピーカーを替えるかどうかといった設問であれば、替えたいといった意見は集まらないだろうと考え、当時の流行歌を取り上げ、その流行歌を綺麗な音のするスピーカーで聞きたくはないかという設問にした。結果、大勢の賛成意見が集まり、スピーカーを買い替えてくれることになった。

つまり、質問の仕方次第で、自分の問題意識に気づいてもらって、意見を集めることができる。良い質問の仕方が、マイノリティである我々の世代の意見を市政に届ける上での1つの策であると思っている。

【会長】

高松市は、若者の市政への間口を持っているということ自体が魅力となるし、我々U40がその若者の声を市政に届ける役割の一端を担えることにもなる。そして、市も若者の声を無視できないようにするために、発表会で、市にしっかりフィードバックさせてもらえればと思っている。

では、事前課題のブラッシュアップの前にデモンストレーションをして、グループワークを行いたい。

【副会長】

では、まず『「高松には何も無い」と子どもに吹き込む大人が多い』についてだが、課題感を整理するといわゆる若者を対象として、その若者の身の回りの人たちが高松市に魅力がないと言っているかどうか。そのことをアンケートで、まず現状を把握する必要があると思っている。高松市に魅力がないと言っている人が身の回りにどれくらいいるのかを可視化することが第一歩だと思う。

【委員】

アンケートの対象を具体的に考えていなかったもので、対象を若者として考えると、設問としてはそうなると思う。あと、10段階評価で聞くのであれば、高松市に魅力がないと言っている人が身の回りにどれくらいいるのかを割合で聞くのも面白いと思う。

【副会長】

現状を把握する設問にできればよいと思う。

【委員】

若者の声を可視化して、市政に届けると考えたときに、共感の数を声として集める必要がある。つまり、質問内容に共感できるポイントをどう作るか。加えて、魅力がないと子どもに吹き込むことによって、市としてどういうことが課題で、その課題が解決されることで、何が期待できるのかといった論理を組み立てておくと、質問の意図が明確になってくると思う。

【副会長】

アンケート結果のエビデンスを市に示して、市がどういうアクションを起こしてくれるのかといったイメージができているとより良いと思う。

【会長】

市役所メンバーはどう思うか。

【市U40】

アンケートを通して、市役所の担当者に少しでも共感してもらえるようになればよいと思う。

【副会長】

次に、『高松は自然もあるしおしゃれなお食事処もあるしお買い物もできるけれど、友人とランチに行った際、「この後どうする？」と毎回悩む羽目になる。』についてだが、高松市の休日の過ごし方に満足している人と満足していない人では、回答も異なってくると思うので、例えば、そもそも若者の高松市での休日の過ごし方や満足度を調査することも必要ではないかと思う。

【委員】

例えば、12時からカフェでランチし、その後、14時から遊びに行く選択肢がたくさんあるかといった質問の仕方だと、自分の課題感に近いアンケート結果を引き出すことができるかと思う。

【副会長】

そのアンケート結果で、市がどうアクションをしてもらいたいかを踏まえるといいと思う。また、東京のような都会に比べると地方は遊べるコンテンツは少ないので、地方では遊び方を知らないといけないと思っている。高松の遊び方を知り尽くしているかどうかというバロメーターで質問内容を作ることもよいかも知れない。

【市U40】

市として何ができるかというのが難しいかも知れない。例えば、市では、観光客向けに情報発信はしているが、実際に何ができるのかというところで。

【会長】

例えば、観光客は、地元の人のごし方を真似したい。地元の人のごし方の見える化という意味では、「エクスペリエンス高松」の情報は親和性がある。地元の人にアクセスする工夫もできることではないかと思う。観光客のためだけの情報でもない気がする。

【副会長】

欲張れば、担当者が色々と動いてくれれば嬉しいと思う一方で、まずは高松の若者の休日のごし方はどうなっているのかということを知ることができるだけでも、担当者が動けるインセンティブになると思う。

【会長】

三豊市の父母ヶ浜の事例で言えば、地元の人が綺麗な写真の撮り方を知っていて、それがSNSで流行り、観光資産としての価値が高くなった。地元の人が遊び方を知っていたことによる産物である。現状として、若者が高松の休日を楽しめていないということであれば、若者が高松市の観光資源や魅力をもっと理解するようにすることで、将来的な結果が出てくるのではないかと思う。

【副会長】

最後に、『高松で「住む・働く」と積極的に検討されにくいこと。高松で多様な働き方が展開されているとともに、従来型の雇用も一定数確保されていることに気づいてほしい。』についてですが、説明をお願いできますか。

【市U40】

高松市の課題として、就職先がないと認識されているのであれば、移住などを促すことも難しいと思うので、雇用関係の課題を挙げさせてもらっている。高松市の有効求人倍率は全国で3位という数字もあって、元々、ポテンシャルは持っているということもアンケートでPRしたい。

質問としては、有効求人倍率は全国で何位だと思うかといった形で、有効求人倍率の高さをPRしたい。

【副会長】

有効求人倍率は量的な数値だと思うが、一方で、課題感として「多様な働き方」といった質的な課題を持たれている。「多用な働き方」という課題であれば、有効求人倍率ではなく、若者が高松の雇用環境の質にどのようなイメージを持っているかを聞くことも1つの方法かと思う。最終的に、どちらをフォーカスして聞きたいのかを整理して、アンケートの質問内容を考えると良いかと思った。

【委員】

有効求人倍率が全国で3位であることは凄いことだと思うが、それに対する課題がどこにあるのか。就職率なのか、Uターン率なのか。課題を整理すれば、期待する展開も自ずと絞られてくると思う。期待する展開を絞れば、質問内容もより明確になると思う。

【会長】

ありがとうございます。

では、このような形で、グループで各々の事前課題をブラッシュアップしていきます。

(グループワークで事前課題ブラッシュアップ)

【会長】

時間が足らず、引き続きブラッシュアップする宿題ができたグループもあった。また、グループワークの中で、市役所U40のアドバイスで市の取組も知ることができ、質問のヒントにもなった。

今後のスケジュールだが、次回の会議でアンケートを完成させたい。その後、アンケートを実施し、回収後、会議を行い、アンケート結果を分析し、最終回で発表会をしたい。

(創造都市推進局長から挨拶)

3 閉会

(事務局から事務連絡をして閉会)